TDK
Life on Record

Belt-Drive USB Turntable

USB ステレオターンテーブル

取扱説明書

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に本取扱説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保管してください。

SP-XA2002

安全上のご注意

本製品は安全に配慮して製造されていますが、誤った使い方をすると、死亡、重傷、傷害などの人身事故、また物的損害を引き起こす原因となり大変危険です。ご使用の前には「安全上のご注意」を必ずお読みになり、記載事項を守って安全に正しくご使用ください。

■故障したら使用しないでください。
本製品が正しく動作せず、「こんなときには」の内容をお読みになり対処しても問題が解消されない場合は、ただちにお客様相談室にご連絡ください。

■万一、異常が発生したときは…
本製品が異常に発熱したり、異臭、異音、煙が発生したときは、ただちに使用を中止してください。その後はご使用にならず、お客様相談室にご連絡ください。

使用している表示と絵記号

警告表示、注意表示の意味は次の通りです。

⚠ **警告**	この表示の項目を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。
⚠ **注意**	この表示の項目を守らないと、人が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容を表示しています。

絵記号の意味は次の通りです。

	この絵記号は禁止行為の説明を表示しています。
	この絵記号は必ず実行していただきたい行為の説明を表示しています。

⚠ 警告

本製品を絶対に分解したり、修理･改造したりしないでください。
火災、感電、やけど、故障の原因になります。分解、修理、改造を行った場合は、故障時の保証対象外となります。

本製品の内部に異物を入れないでください。
水などの液体や金属片などの異物を入れると、火災、感電、故障の原因になります。液体や異物が内部に入ってしまった場合は、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

本製品から煙が出たり、異臭、異音などの異常を感じたりしたら、すぐに使用を中止してください。
そのまま継続して使用すると、火災･感電の原因になります。すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

⚠ 警告

本製品を落としたり、強い衝撃を加えたりしないでください。
衝撃を加えてしまった場合は、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま継続して使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

本製品を濡らしたり、水蒸気や水がかかるような場所で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。浴室やシャワー室では使用しないでください。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

本製品の近くに水などの入った容器を置かないでください。
花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など液体の入った容器を置かないでください。こぼれたり、内部に液体が入ると、火災・感電の原因になります。

本製品の放熱をさまたげない場所に設置してください。
他の機器、壁等から間隔をとって設置してください。ラックなどに入れる場合はすき間を空け、通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因になります。

電源コードを傷つけないでください。
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。電源コードや電源プラグが傷んだ状態（芯線の露出、断線、変形など）で使用すると、火災・感電の原因になります。

雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないでください。
感電の原因になります。

表示された電源・電圧（交流100ボルト）以外で使用しないでください。
表示された電源・電圧以外で使用すると、火災・感電の原因になります。本製品を使用できるのは日本国内のみです。

電源プラグの清掃を定期的に行ってください。
電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因になります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電・故障の原因になります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全だと、発熱したりほこりが付着して火災の原因になります。電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントは使用しないでください。

電源プラグは抜きやすい位置にあるコンセントに差し込んでください。
万一の場合に備えて、電源プラグはよく見えて容易に引き抜ける位置にあるコンセントに接続してください。

電源コードの上に重い物を載せたり、本製品の下敷きにしたりしないでください。
コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。

⚠ 注意

本製品を不安定な場所に置かないでください。
ぐらついた台の上や傾いた場所、振動する場所に置かないでください。落下したり転倒したりして、けがの原因になることがあります。

高温、多湿、ほこりの多い場所に置かないでください。
窓際や車中など直射日光のあたる場所、ストーブのような暖房器具の近くなど高温になる場所、調理台や加湿器の近くなど油煙や湿気のあたる場所、またほこりの多い場所に放置すると火災・感電の原因になることがあります。

音が歪んだ状態で長時間使用しないでください。
スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

電源を入れるときは、接続する機器の音量設定を最小にしてください。
始めから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

フォノ入力に対応する外部機器に接続するときは、内蔵プリアンプのスイッチをONにした状態でフォノ入力コネクターに接続しないでください。
出力レベルが大きくなりすぎて接続機器・スピーカーの破損の原因になることがあります。

同梱品以外の電源コードは使用しないでください。
火災・感電の原因になることがあります。また、本製品の電源コードを他の機器に使用することもおやめください。

お手入れをするとき、長期間使用しないときは、電源を外してください。
安全のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

移動させるときは、電源プラグなど、接続したコードを外してください。
コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。また、接続機器が落下したり転倒したりして、けがの原因になることがあります。

梱包袋は安全な場所に保管してください。
製品を梱包していた袋は、お子様の手の届かない安全な場所に保管してください。窒息などの事故の原因になります。

本製品の上に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。
けが・故障の原因になることがあります。

ひび割れ、変形したレコードは使用しないでください。
高速回転しているため、破片が飛散しけがの原因になることがあります。
接着剤などで補修したレコードも同様に危険ですので使用しないでください。

本製品の清掃を定期的にご依頼ください。
機器内部にほこりが溜まった状態で使用を続けると、火災・故障の原因になることがあります。内部の清掃は販売店にご相談ください。

使用上のご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前に録音テストをして正常に録音されていることを確認してください。
- 録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

内蔵プリアンプ使用上のご注意

本機には、RIAA イコライザー機能付きの MM 型フォノプリアンプが内蔵されています。フォノ入力に対応したフォノプリアンプやレシーバー以外の外部機器を接続したときにも十分な出力を可能にします。ただし、本機のプリアンプを使用する場合は次のことに十分注意してください。

本機背面にあるプリアンプ ON ／ OFF スイッチが ON の状態でプリアンプを使用している場合は、いかなる状況でも、本機の RCA 出力をレシーバーやアンプのフォノ入力に接続しないでください。通常、フォノ入力コネクターは「PHONO IN」または「Phono Input」と表示されています。本機のプリアンプと外部機器のアンプやレシーバーのプリアンプを同時に使用してゲインが過剰になると、アンプやスピーカーが損傷するおそれがあります。

また、プリアンプ ON ／ OFF スイッチが OFF の状態で、ターンテーブルの RCA コネクタをレシーバーやアンプのライン入力レベル（「Tape」や「VCR」などと表示）に接続すると、出力レベルが不十分なために出力が十分に聞こえなくなります。アンプで出力をモニターしているときに本機のプリアンプ ON ／ OFF スイッチは絶対に切り替えないでください。安全のため、レシーバーやアンプの電源がオフの状態で、適切なスイッチ位置を選択してください。プリアンプ ON ／ OFF スイッチの ON/OFF は USB 出力には影響しません。

同梱品を確認する

・ACアダプター

・本体

・ダストカバー

・ターンテーブル
／ドライブベルト

・フェルト製
ターンテーブルマット

・モーターカバー

・ソフトウェアCD-ROM
「Vinyl Recorder」

・USBケーブル

・ステレオRCAケーブル

・45RPMアダプター
（EPレコード用）

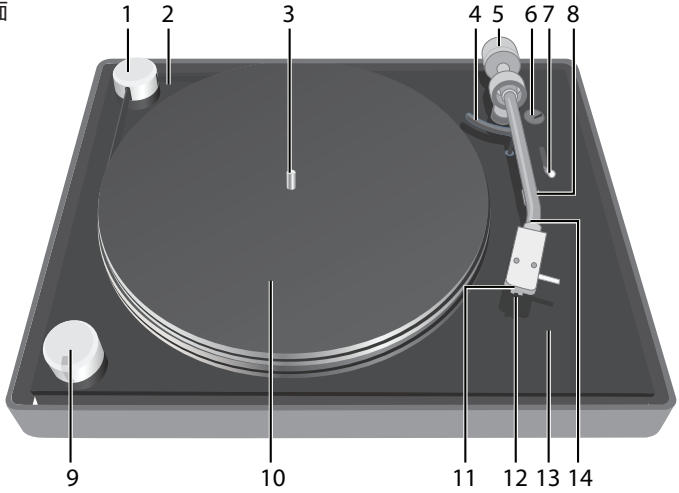
・バランスウェイト

・取扱説明書／製品保証書

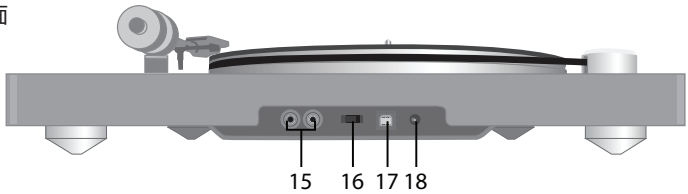
※製品の形状・外観は予告なく変更する場合がありますのでご了承願います。

各部の名称

上面



背面

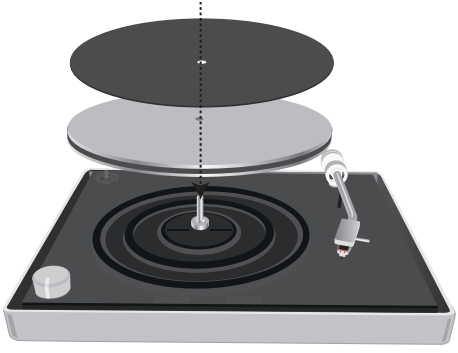


1. モーター／モーターカバー
2. ドライブベルト
3. スピンドル
4. アームリフター
5. バランスウェイト
6. アンチスケーティングコントロール
7. リフターレバー
8. アームレスト
9. 33 ／ OFF ／ 45 回転切り替えダイヤル（電源インジケーター）
10. ターンテーブル
11. トーンアームライト
12. レコード針
13. ディスプレイ
14. トーンアーム
15. RCA OUT ジャック
16. プリアンプ ON ／ OFF スイッチ
17. USB 端子
18. DC IN ジャック

ターンテーブルを組み立てる

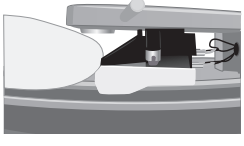
部品を箱から出して、次の手順に従って組み立てます。

1. ターンテーブルをスピンドルの上にそっと置き、ターンテーブルが完全に安定したことを確認します。



2. フェルト製ターンテーブルマットをターンテーブルの上に置きます。

3. レコード針からプラスチックのカバー（レコード針カバー）を取り除きます。

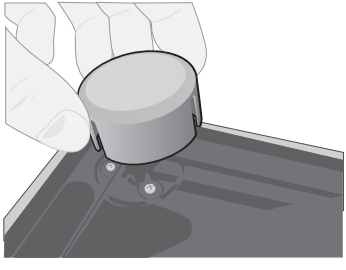


4. モータープーリーの周りにドライブベルトをそっと掛けます。
手の脂やその他の汚れがベルトに付かないように注意してください。

補足：

ドライブベルトは最初からターンテーブルに取り付けられた状態になっています。

5. モーターの上にモーターカバーを置きます。
ドライブベルトはモーターカバーの両側のスリットを通してください。



バランスウェイトを取り付ける

バランスウェイトを調整し、カートリッジの針圧を正しく設定する必要があります。

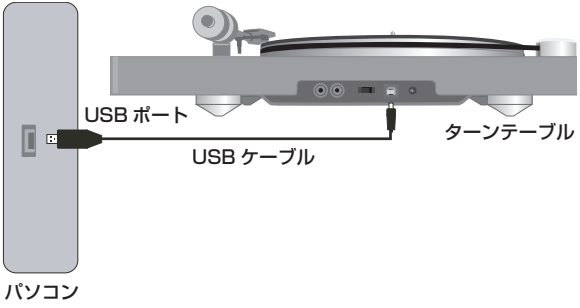
1. ターンテーブルを水平で安定した場所に設置します。
2. レコード針を損傷しないように、トーンアームをしっかり固定した状態で、バランスウェイトの数字を手前に向けたまま、バランスウェイトをトーンアームの奥までゆっくり動かします。
3. トーンアームのカートリッジと逆側の端から見て右回りにバランスウェイトを回します。
4. アームリフターを下ろし、レコード針カバーを取り外した状態で、トーンアームが平衡になる位置まで少しずつバランスウェイトを回します。トーンアームが水平で周囲に接触しないようにバランスをとります。
5. トーンアームが水平な状態を基準として設定します。バランスウェイトの後ろ側を押さえて動かないように固定し、バランスウェイトの前側にある目盛り付きダイヤルを回して、「0」をトーンアームの中心線に合わせます。
6. 「0」の基準位置から、バランスウェイトの前側と後ろ側を両方持って、ダイヤルの「3（右回りに 1 周）」をトーンアームの中心線に合わせます。このとき、針圧は 3 グラムで、使用しているカートリッジに最適なトラッキング力であることを示します。
7. アンチスケーティングコントロールを針圧の設定に合わせて「3」に設定します。
   それ以降に可能な調整については、15 ページの「本機を使用する」を参照してください。

付属以外のカートリッジを使用する場合には

カートリッジによって推奨される値は異なります。針圧やアンチスケーティングの推奨値などの設定については、ご使用のカートリッジに付属する取扱説明書を参照してください。

本機とパソコンを接続する

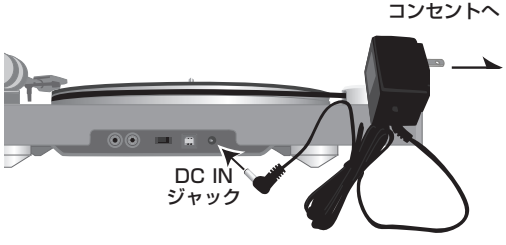
本機をパソコンに接続して使用するときは、20 ページの「Vinyl Recorder をインストールする（Windows）」の説明に従って、同梱のレコードデジタル変換用ソフトウェアをインストールしてください。



1. 本機が電源に接続されていない状態で、付属の USB ケーブルの小さい方のコネクターを本機背面の USB 端子に接続し、もう一方のコネクターをパソコンの USB ポートに接続します。

   補足：

   - 本機をパソコンに接続するときは、本書のほかにご使用のパソコンの取扱説明書も参照してください。
   - 本機とパソコンがどちらもコンセントに接続されていないことを確認してから、接続してください。
   - USBケーブルで接続しているときは、本機のディスプレイにUSBインジケーターが点灯します。



2. AC アダプターの DC プラグを、本機背面の DC IN ジャックに挿入します。AC アダプターの電源プラグを、コンセントに挿入します。

   補足：

   - 使用しないときは、DCプラグと電源プラグを抜いて、ACアダプターを取り外してください。
   - 本機に付属のACアダプター以外は使用しないでください。

本機とパソコンを接続して使用するときの詳細については、19 ページの「本機とパソコンを接続して使用する」を参照してください。

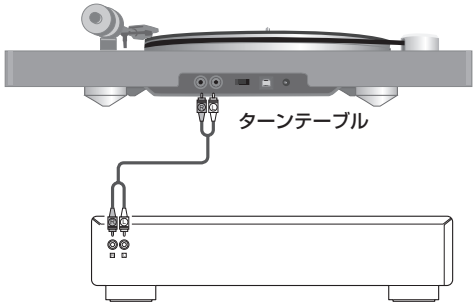
本機を家庭用ステレオやポータブルスピーカーとLINE IN接続する

本機を家庭用ステレオやポータブルスピーカーなど、フォノプリアンプが内蔵されていない外部機器と LINE　IN 接続するときは、必ず 6 ページの「内蔵プリアンプ使用上のご注意」を読み、記載に従って使用してください。

補足：

・本機を外部機器と接続するときは、本書のほかに接続する外部機器の取扱説明書も参照してください。
・電源がオフの状態で、本機と外部機器がどちらもコンセントに接続されていないことを確認してから、LINE IN接続してください。

1. 同梱のステレオ RCA ケーブルの左右のプラグを、本機背面の RCA OUT ジャックの Left と Right に接続します。このとき、接続するプラグとジャックの色をそろえます。ステレオ RCA ケーブルのもう一方の端を、家庭用ステレオなどの機器の LINE　IN ジャックに接続します。

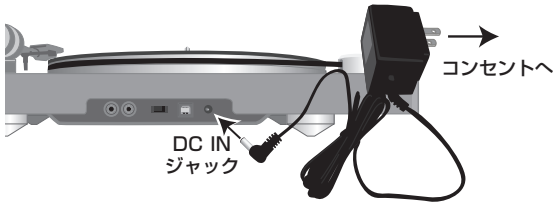


2. 本機背面にあるプリアンプ ON ／ OFF スイッチを ON にします。

3. ACアダプターのDCプラグを、本機背面のDC INジャックに挿入します。ACアダプターの電源プラグを、コンセントに挿入します。

補足：

・使用しないときは、DCプラグと電源プラグを抜いて、ACアダプターを取り外してください。
・本機に付属のACアダプター以外は使用しないでください。
・接続後に、LINE INジャックからの信号を受信するように外部機器を設定します。



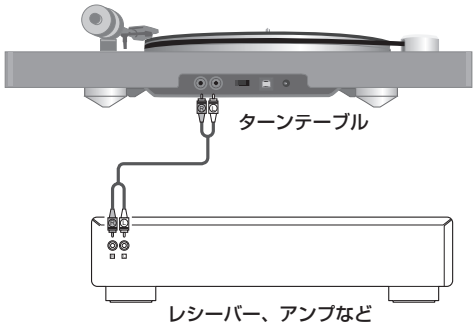
フォノプリアンプ入力が付いた外部機器（レシーバー、アンプなど）に接続する

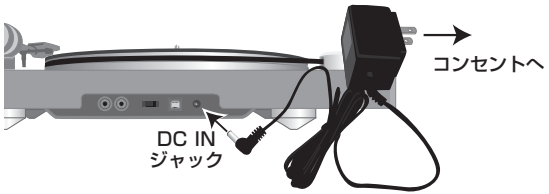
フォノプリアンプ入力に対応した外部機器（レシーバー、アンプなど）に接続するときは、必ず 6 ページの「内蔵プリアンプ使用上のご注意」を読み、記載に従って使用してください。

1. 本機背面にあるプリアンプ ON ／ OFF スイッチを OFF にします。
2. 同梱のステレオ RCA ケーブルの左右のプラグを、本機背面の RCA OUT ジャックの Left と Right に接続します。このとき、接続するプラグとジャックの色をそろえます。ステレオ RCA ケーブルのもう一方の端を、レシーバーなどの機器の PHONO　IN ジャックに接続します。
3. AC アダプターの DC プラグを、本体背面の DC　IN ジャックに挿入します。AC アダプターの電源プラグを、コンセントに挿入します。

   補足：

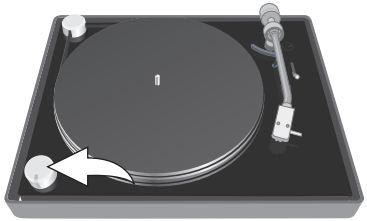
   ・使用しないときは、DCプラグと電源プラグの両方を抜いて、AC アダプターを取り外してください。
   ・本機に付属のACアダプター以外は使用しないでください。
   ・接続後に、PHONO　INジャックからの信号を受信するように外部機器を設定します。





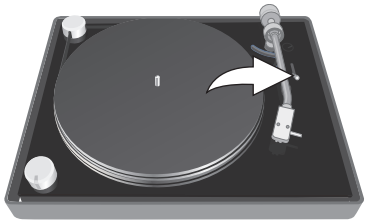
本機を使用する

1. ターンテーブルにレコードを置きます。
   45 回転の EP レコード盤を使用するときは、45RPM アダプターを使用してください。
   補足：
   45RPMアダプターが不要な45回転のEPレコード盤もあります。



2. 再生するレコードに合わせて、33 ／ OFF ／ 45 回転切り替えダイヤルを 33 側または 45 側に回します。
   電源インジケーターとディスプレイが点灯します。

3. トーンアームを持ち上げてターンテーブルの上まで動かします。
   ターンテーブルが回転し、トーンアームライトが点灯します。



4. リフターレバーを下げます。

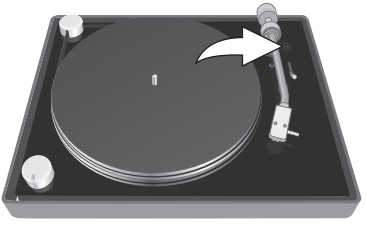
5. トーンアームをレコードの端に置いて最初から演奏します。またはレコードの演奏面の任意の場所に置いてそのポイントから演奏します。
   ディスプレイに、レコードの出力レベルが表示されます。

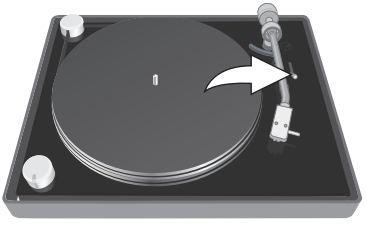
6. 音が歪むときは、トーンアームのバランス、バランスウェイトとアンチスケーティングの設定を確認します。また、レコード針にほこりがたまっていないかどうかも確認してください。
   バランスウェイトの調整方法については、10 ページの「バランスウェイトを取り付ける」を参照してください。

7. 必要に応じて、アンチスケーティングコントロールを調整します。通常、アンチスケーティングコントロールとバランスウェイトは同じ数字を設定します。アンチスケーティングはカートリッジで発生するインサイドフォースを打ち消します。レコード針がレコードの中央に近づくとインサイドフォースは大きくなります。再生中、中央のスピンドルに近づくにつれてターンテーブルの音飛びが激しくなる場合は、アンチスケーティングコントロールを少しずつ上げてください。アンチスケーティングコントロールの効果は、トーンアームで設定される針圧によって差異が生じます（通常、針圧が大きくなるほど、必要なアンチスケーティングの値は小さくなります）。

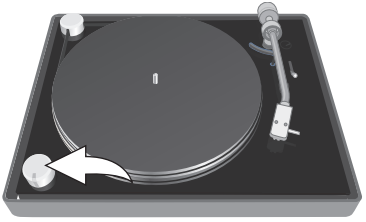
8. 再生を一時停止するときはリフターレバーを上げます。再開するときはリフターレバーを下ろします。

9. レコードの最後まで到達すると、ターンテーブルの回転が停止し、トーンアームライトが消えます。リフターレバーを上げ、トーンアームをアームレストまで戻して、リフターレバーを下げます。レコードの最後まで到達する前に再生を停止するときは、リフターレバーを上げてトーンアームをアームレストまで戻し、リフターレバーを下げます。





10. 本機の電源を切るときは、33 ／ OFF ／ 45 回転切り替えダイヤルを回して OFF の位置にします。電源インジケーターとディスプレイが消灯します。レコード針にレコード針カバーを取り付けて保護します。



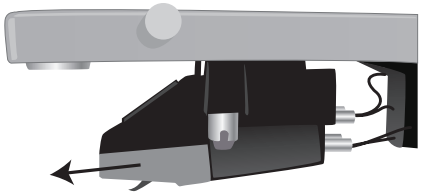
補足：

パソコンと接続し、同梱のレコードデジタル変換用ソフトウェアを使用して録音および編集をするときは、19ページの「本機とパソコンを接続して使用する」を参照してください。

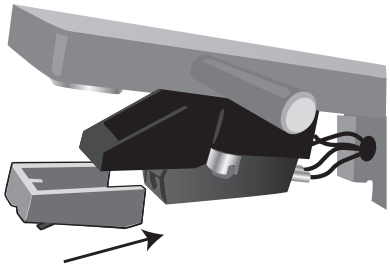
ターンテーブルのレコード針の交換

レコード針は最大で 400 時間使用できます。レコード針を交換するときは、次の手順に従ってください。

1. レコード針をゆっくり手前にスライドさせて取り外します。



2. 新しいレコード針を取り付け部にスライドさせて取り付けます。



補足：

レコード針は保守部品となっております。弊社お客様相談室にご相談ください。

本機とパソコンを接続して使用する

本機では、同梱のレコードデジタル変換用ソフトウェア「Vinyl Recorder」を使用してアナログレコードの音源をデジタルデータに変換することができます。本機能を使用する前に「Vinyl Recorder」をお使いのパソコンにインストールしてください。

システム要件:

- Windows 7 (32ビット)
- Windows Vista (32ビット)
- Windows XP (32ビット)

パソコンのスペックについて:

ソフトウェアの性能は、有効な処理速度やご使用のオペレーティングシステムによって異なります。システムの能力が高いほど、ソフトウェアの性能も高くなります。

Mac環境でのご使用について

Mac では、Vinyl Recorder のソフトウェアは使用できません。Mac をご使用の場合は Audacity をお奨めします。Mac 用の Audacity ソフトウェアと取扱説明書は http://audacity.sourceforge.net からダウンロードできます。

同梱のソフトウェアに関する重要な注意

同梱のソフトウェアに関するサポート情報は HP でご案内しております。

http://www.tdk-media.jp

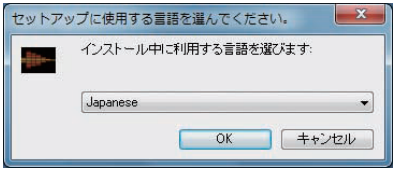
補足：

TDK Life on Recordブランドのターンテーブルなどの USBオーディオ機器を使用している場合、パソコンに接続したときにインストールされるドライバが既定のサウンドデバイスとして使用される可能性があります。一時的にUSBオーディオ機器のデバイスが［既定のデバイス］に設定されて、通常のサウンドデバイスがミュートや無効になります。USBオーディオ機器の接続を外すと、通常のサウンドデバイスが再び有効になります。
インストールされているシステムとハードウェアによっては、使用するオーディオデバイスを調整する必要があります。デバイスを調整するときは、［コントロールパネル］を開いて、［サウンドとオーディオ デバイス］をクリックします。［オーディオ］タブをクリックして、再生または録音の既定のデバイスを調整してください。通常、オーディオデバイスは自動的に調整されるため、手動での操作は不要です。

Vinyl Recorderをインストールする（Windows）

1. CD-ROM を挿入します。パソコンで自動再生に設定されている場合、自動的にインストールが開始されます。自動再生に設定されていない場合は、[マイコンピュータ] でソフトウェアの CD-ROM を選択し、Setup.exe ファイルをダブルクリックします。

2. [セットアップに使用する言語を選んでください。] 画面が表示されます。インストール時に使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。

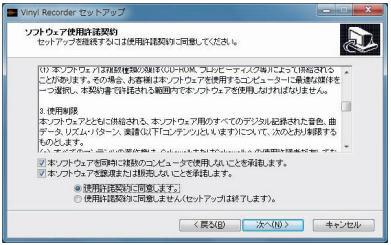


補足：

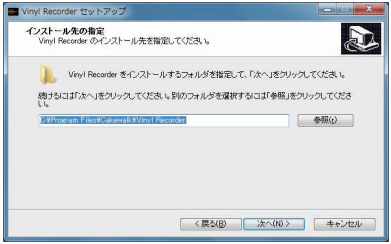
・Vinyl　Recorderソフトウェアを再インストールする場合は、WindowsのコントロールパネルからすでにインストールされているVinyl　Recorderソフトウェアを削除し、その後再インストールしてください。事前にアンインストールすることで、再インストール中にエラーが発生する可能性が小さくなります。

3. [Vinyl　Recorder セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。[次へ] をクリックしてインストールを開始します。

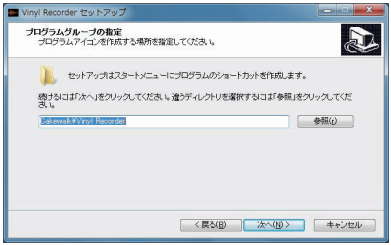
4. [ソフトウェア使用許諾契約] 画面が表示されます。ソフトウェアのライセンス契約書の条項に同意するときはチェックボックスにチェックを入れ、「使用許諾契約に同意します。」を選択し、[次へ] をクリックします。



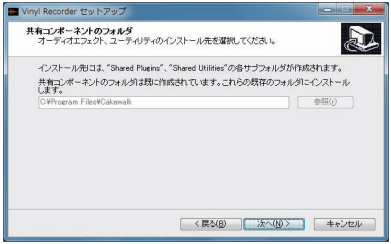
5. [インストール先の指定] 画面が表示されます。ソフトウェアのインストール先に、デフォルト以外のフォルダを指定するときは、画面の指示に従って操作します。デフォルトのインストール先フォルダを使用するときは [次へ] をクリックして続行します。



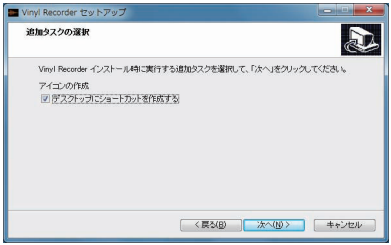
6. [プログラムグループの指定] 画面が表示されます。プログラムのショートカットをインストールするフォルダを指定して、[次へ] をクリックします。



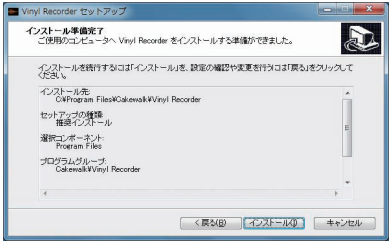
7. [共有コンポーネントのフォルダ] 画面が表示されます。オーディオエフェクトとユーティリティをインストールするフォルダを指定して、[次へ] をクリックします。



8. [追加タスクの選択] 画面が表示されます。ショートカットを作成するときは、「デスクトップにショートカットを作成する」チェックボックスにチェックを入れます。[次へ] をクリックします。

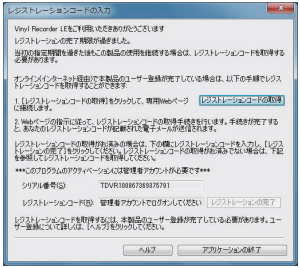


9. [インストール準備完了]画面が表示されます。[インストール]をクリックして、インストールを続行します。



10. [Vinyl Recorder セットアップウィザードの完了]画面が表示されます。[完了]をクリックするとプログラムが起動します。

11. [レジストレーションコードの入力]画面が表示されます。画面の指示に従って、お使いの Vinyl Recorder ソフトウェアを登録します。



Windows Vista/7をご使用の場合には、「レジストレーションコード」の欄に「管理者アカウントでログオンしてください」と表示されることがあります。その際は、一度アプリケーションを終了してから、デスクトップ上のVinyl Recorderのアイコンを右クリックし、「管理者として実行する」を選択して、Vinyl Recorderを再起動してください。

補足：

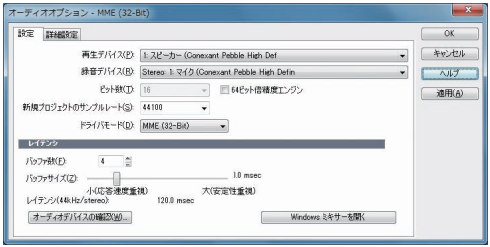
・本書ではWindows 7のときのインストール手順を説明しています。Windows XP/Vistaで実際に表示されるメッセージおよび手順は異なることがあります。CD-ROMを挿入し、各OSで表示されるセットアップウィザード画面の指示に従ってインストールしてください。

Vinyl Recorderを使用する（Windows）

インストール処理を完了すると、プログラムが自動的に起動し、Vinyl Recorder の [スタート] 画面が表示されます。この画面には、ソフトウェアの操作に関する便利なチュートリアルへのリンクが記載されています。この画面はプログラムを起動するたびに表示されますが、画面左下の [SHOW AT STARTUP?] チェックボックスのチェックを外すと表示されなくなります。

パソコンに本機を接続した状態で、デスクトップ上の Vinyl Recorder のアイコンをダブルクリックしてソフトウェアを起動します（まだ起動していない場合）。ソフトウェアが起動すると Vinyl Recorder のツールバーが表示されます。ツールバーのボタンをクリックすると、ソフトウェアの操作に使用するコントロールを含むウィンドウが表示されます。次のページ以降で、詳しい操作手順を説明します。

はじめに [Options] ボタンをクリックします。[オーディオオプション] 画面が開き、録音設定が表示されます。[設定] タブでは、使用したい [再生デバイス]、[録音デバイス]、[ビット数]、[サンプルレート] および [ドライバーモード] を選択します。ビット数は 16、サンプルレートは 44100、ドライバモードは MME（32-Bit）に設定することをお勧めします。設定したら [OK] をクリックします。



変更する必要がない場合は、そのまま [OK] をクリックしてデフォルト設定を使用します。詳細な説明を参照するときは、[オーディオオプション] 画面の [ヘルプ] ボタンをクリックします。

Recorderモジュール

録音するときは、Vinyl Recorder ツールバーの [Recorder] ボタンをクリックして録音操作画面を表示し、25 ページからの「オーディオファイルを録音するとき」の説明に従って操作します。

本書は、Vinyl Recorder ソフトウェアを使用した録音方法の概要を説明しています。詳細な説明を参照するときは、録音操作画面の [HELP] ボタンをクリックします。

[Recorder Transport] ボタンは次のとおりです。

1　入力モニタボタン
2　戻るボタン(I◀)
3　録音ボタン(●)
4　一時停止ボタン(II)
5　停止ボタン(■)
6　再生ボタン(▶)
7　進むボタン(▶I)

オーディオファイルを録音するとき

1. 録音ボタン（●）をクリックします。
   一時停止機能が自動的にオンになります。

2. 必要に応じて、入力モニタボタンをクリックします。
   入力モニタ機能がオンのとき、録音されている音が出力されます。

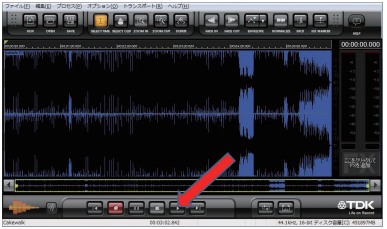
3. 一時停止ボタン（II）をクリックすると録音が始まるので、レコードの再生を開始します。
   画面右側のメーターに、録音レベルが表示されます。

4. 片面の再生が終了したら、一時停止ボタン（⏸）をクリックします。レコードを裏返してもう一方の面を再生し、一時停止ボタン（⏸）をクリックして録音を再開します。

5. 再生が終了したら、停止ボタン（■）をクリックします。
レコードの各面に対して 1 ファイルずつ、個別のオーディオファイルが作成されます。

6. 戻るボタン（⏮）をクリックして、録音の最初に戻ります。

7. 再生ボタン（▶）を押し、録音した曲を再生します。次ページからの「オーディオファイルを保存するとき」の手順に従って、ファイルを保存します。



オーディオファイルを保存するとき

1. 録音操作画面の最上部にあるメニューバーで、[ファイル] → [名前をつけて保存] を選択します。次に、保存したいファイルのフォーマット（WAV、MP3、WMA またはプロジェクト）を選択します。

   補足：

   プロジェクト形式のファイルはオーディオファイルとは異なります。プロジェクトを選択して保存しておくと、後から Recorderモジュールでファイルを開き直し、必要に応じて編集することができます。

2. 保存先を指定してファイル名を入力します。[チャンネルフォーマット] がステレオ、[サンプルレート] が 44100、[ビット数] が 16 に設定されていることを確認します。

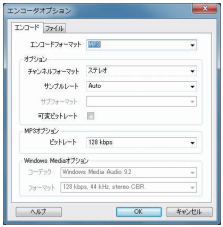
3. [保存] ボタンをクリックします。

保存したいすべてのファイルに対してこの手順を繰り返します。

Encoderモジュール

Vinyl Recorder ツールバーの [Encoder] ボタンをクリックします。[Encoder] 画面が表示されます。下図で示す [プリセット] アイコンをクリックします。このモジュールでは、MP3 ファイルをエンコードできます。

[エンコーダオプション] 画面が表示されたら、必要な設定を選択して [OK] をクリックします。次に、オーディオファイルを [Encoder] 画面内のターゲットまでドラッグします。ターゲットで設定されているフォーマットに、ファイルが変換されます。



ターゲットの設定手順と詳細な説明を参照するときは、[Encoder] 画面の [HELP] ボタンをクリックしてください。

補足：

本機に付属のEncoderモジュールは30日間の試用版です。30日間の試用期間経過後に、MP3ファイルをエンコードしたいときはEncoderモジュールを製品版にアップグレードする必要があります。別のソフトウェアアプリケーションによってMP3エンコーダがパソコンにインストールされているときは、そのエンコーダを本ソフトウェアで使用することができます。

Taggerモジュール

Vinyl Recorder ツールバーの [Tagger] ボタンをクリックします。[Tagger] 画面が表示されます。

このモジュールでは、録音したファイルに情報タグ（タイトル名、アーティスト名、アルバム名、ジャンルなど）を追加できます。適切なフィールドに必要な情報を入力したら、[WRITE TAGS] ボタンをクリックします。情報がファイルに埋め込まれます。

詳細な説明を参照するときは、[Tagger] 画面の [HELP] ボタンをクリックしてください。

Burnerモジュール

Vinyl Recorder ツールバーの [Burner] ボタンをクリックします。[Burner] 画面が表示されます。このモジュールでは、録音したファイルをオーディオ CD に書き込むことができます。

オーディオファイルをCDに書き込むとき

1. パソコンのディスクドライブに空の CD を挿入します。
2. [Burner] ウィンドウの [オーディオ CD 書き込み] タブをクリックします。
3. [追加] をクリックして、目的のオーディオファイルを選択します。
4. 目的のディスクドライブを選択します。
5. [BURN DISC] をクリックします。
   処理が完了します。

詳細な説明を参照するときは、[Burner] 画面の [HELP] ボタンをクリックしてください。

こんなときには

本機が正しく動作しないときは下記の対処方法を行ってください。

- ターンテーブルの電源プラグを抜いて差し直す。
- 最新のソフトウェアをダウンロードする。
- パソコンを再起動する。

Vinyl Recorder ソフトウェアに関するサポート情報はHP でご案内しておりますのでご参照ください。

http://www.tdk-media.jp

■ ターンテーブルが動作しない。

- AC アダプターがコンセントに接続されているか、DC プラグが本機に接続されているかを確認してください。
- ドライブベルトが正しく取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合は、9 ページの「ターンテーブルを組み立てる」を参照してください。
- 33 ／ OFF ／ 45 回転切り替えダイヤルが 33 側か 45 側に設定されていることを確認してください。

■ ターンテーブルは動作するが、音が出ない。

- レコード針にレコード針カバーがついたままになっている可能性があります。レコード針カバーを取り外してください。
- リフターレバーが上がっている可能性があります。リフターレバーを下ろしてください。
- 家庭用ステレオやアンプなどに接続している場合は、外部機器が正しく設定されていない（テープモニターがオンになっている、スピーカーがオフになっているなど）可能性があります。設定を確認してください。
- カートリッジのレコード針が正しく取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合は、18 ページの「ターンテーブルのレコード針の交換」を参照してください。

■ ターンテーブルは動作するが、音が小さすぎる。

- 本機が接続されている AUX ジャックが正しく動作していることを確認してください。
- プリアンプ ON ／ OFF スイッチが ON になっているかを確認してください。プリアンプの詳細については、6 ページの「内蔵プリアンプ使用上のご注意」をお読みください。
- 本機が接続されている外部機器の音量の設定が小さい可能性があります。音量の設定を大きくしてください。
- レコード針が破損している、または無くなっている可能性があります。18 ページの「ターンテーブルのレコード針の交換」を参照して、新しいレコード針を取り付けてください。

■ 音が歪む。

本機 RCA 出力がアンプのフォノ入力に接続されている可能性があります。プリアンプ ON ／ OFF スイッチが ON に設定されていると、フォノ入力が過負荷になってしまいます。プリアンプ機能を OFF にするか外部機器の接続ジャックを変更してください。

■ レコードやトーンアームがわずかに動いたり音飛びする。

・レコードやトーンアームがわずかに動くことは普通の状態です。しかし音飛びが発生する場合は、ターンテーブルが水平になっていることを確認し、10 ページの「バランスウェイトを取り付ける」を参照し、バランスウェイトとアンチスケーティングを調整してください。

・本機が、床や壁からの振動や、スピーカーから直接出る音の振動を拾っていないことを確認してください。

■ レコードの再生が速すぎる、または遅すぎる。

33 ／ OFF ／ 45 回転切り替えダイヤルの設定を誤っている可能性があります。レコードに対応した速度に設定されていることを確認してください。

■ 演奏中にブーンという低い音（ハム音またはバズ音）が入る。

蛍光灯またはその他の機器の電源コードを本機から離してください。

■ ハウリングや低周波ノイズが起きる。

本機からスピーカーを離して設置してください。

お手入れ

- レコード針の先は頻繁にクリーニングしてください。クリーニングには柔らかいブラシを使用し、必ず奥から手前にブラシを動かしてください。レコード針洗浄液を使用する場合は、ごく少量を使用してください。
- 使用しないときは、本機にダストカバーをかぶせて保管してください。
- ダストカバーと本機の表面は、柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、ダストカバーと本機の脚部のみ、薄めた中性洗剤を含んだ布で拭いてください。強い化学薬品や溶剤は絶対に使用しないでください。
- 本機を移動するときは、トーンアームとアームレストをビニール紐などで固定し、ダストカバーをかぶせてください。遠くまで本機を移動する場合は、ご購入時の梱包材を使用し、開梱前と同様に本機の部品を梱包してから移動してください。

主な仕様

駆動方式	ベルトドライブ方式
駆動モーター	DC サーボモーター
回転数	33⅓RPM または 45RPM
ワウフラッター	0.25% 以下（WTD）
S/N 比	50dB 以上
プリアンプゲイン	36dB
カートリッジタイプ	可動式マグネットカートリッジ
出力（内蔵 RIAA プリアンプ ON 時）	200mV
出力（内蔵 RIAA プリアンプ OFF 時）	3mV
電源	AC アダプター（12V）
消費電力	5 W
USB 規格	B Type USB ver.2.0
国内サポート OS	Windows XP/Vista/7（32 ビット）
本体寸法	約 455mm（幅）x 381mm（奥行き）x 114mm（高さ）
本体質量	約 6.5kg

交換針、交換ベルトは保守部品となっております。弊社お客様相談室にご相談ください。

製品の仕様および外観は予告無く変更する場合がありますのでご了承願います。

品名	USBステレオターンテーブル
原産国	中国
事業者名	イメーション株式会社

TDK Life on Recordロゴは、TDK株式会社の商標です。

TDK
Life on Record

保証書

品番	SP-XA2002
お買い上げ年月日	年　　月　　日
保証期間	お買い上げ年月日より1年間
お客様	ご氏名 ご住所　〒 電話番号（　　）　　－
販売店	販売店名･住所

お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきまして

ご相談の際にお受けした個人情報は、お問い合わせへの対応およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ユーザー登録のお願い

本製品をご購入されたお客様にはユーザー登録をお願いしております。
TDK Life on Recordのホームページより、オンラインでのご登録を行ってください。

http://www.tdk-media.jp/support/

お問い合わせは **お客様相談室** まで

0120-81-0544

www.tdk-media.jp

保証規定

1. お買い上げの日から1年以内に製造に起因する故障が発生した場合、修理または交換をさせていただきます。

2. 保証期間内でも次の場合は原則として費用をご負担いただきます。
   - 操作上の誤り、および弊社によらない修理や改造による故障および損傷
   - 火災、風水害、地震などの天災による故障および損傷
   - お買い上げ後の輸送、落下などによる故障および損傷
   - 本製品以外の機器が原因となって生じた故障および損傷
   - 一般家庭用以外（業務用途など）での使用で生じた故障および損傷
   - 保証書が提示されない場合
   - 保証書にお買い上げ年月日、販売店名の記入、または領収書や納品書など保証開始時期を証明するものがない場合
   - 車両・船舶等に搭載された際に生じた故障および損傷

3. 保証の対象外
   - 消耗・磨耗品は補償いたしかねますのでご了承ください。
   - 本機やパソコンなどを使用中、万一これらの不具合により録音されなかった場合の録音内容については補償いたしかねますのでご了承ください。

4. 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

5. 本保証書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

6. 本保証規定は日本国内でのみ有効です。
   ※This warranty is valid only in Japan.

TDK

Life on Record

SP-XA2002